

受理年月日	令和 7 年 7 月 22 日	所管委員会	福祉都市委員会
番 号	7 年 陳 情 第 8 号		
件 名	日常生活用具給付への排せつ予測支援機器の追加認定について		
陳 情 者			
分割送付	なし		
要 旨	令和 6 年 3 月の障害保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには、各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当事者団体等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては、平成 18 年の障害者自立支援法以前に国が定めた基準額や実施方法にとられることなく、定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した、適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載があります。 また、陳情者に関する基本情報として、7 歳男児（療育手帳 A 2、知的障がい及びてんかんあり、片言のおしゃべりと多少の理解及び自立歩行可能）について、完全におむつで排せつしており、定時誘導するもののトイレで排せつができない（便座へ座らせても出ない）。排便は何となく本人から訴えがあるがほぼ排尿に関しては訴えがなく、特に就寝時のお漏らしによりおむつから横漏れ等が多く困っている状況であることから、排せつ予測支援機器 D F r e e を使うことで、適切なタイミングで排せつができるのではないかと思います。利用を始めました。D F r e e は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿のたまり具合をゼロから 10 で数値化できる支援機器です。その数値は専用タブレットや自身のスマートフォンから確認でき、排尿のタイミングを予測し、排尿の機会を本人または介助を行う者に通知することができます。我が家では D F r e e で数値化された尿量をスマートフォンで確認し、通知を基にトイレでの排尿を促し活用しています。数値が上がったタイミングでトイレ誘導すると、今までは空振りが多かったトイレ排尿が成功するようになりました。D F r e e をきっかけに本人もトイレ排尿の認識ができトイレトレーニングの一環になっています。今までのように無駄なタイミングでのトイレ誘導が減り、本人と介助者の負担軽減にもつながっています。このように尿意を感じることができない障がい者にとって D F r e e は非常に有用です。 よって、以下の事項について陳情します。 1. 排せつ予測支援機器 D F r e e は、令和 4 年 4 月に特定福祉用具に認定され、介護保険適用のものであるため、障がい者・児の負担が少なく購入できるよう、日常生活用具として追加認定すること。		

日常生活用具の給付へ排泄予測支援機器の追加認定を求める陳情書

令和7年 7月 15日

福岡市議会議長

平畑 雅博 様

陳情者 住所

氏名



■陳情の趣旨

排泄予測支援機器「DFree」を福岡県福岡市において、日常生活用具として認定いただきたく陳情いたします。令和6年3月の障害保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには、各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当事者団体等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては、平成18年の障害者自立支援法以前に国が定めた基準額や実施方法にとらわれることなく、定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した、適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい。」と記載があります。これに基づき、排泄予測支援機器を日常生活用具として追加認定いただくことを福岡市に求めて頂きますよう陳情いたします。

1. 陳情者に関する基本情報、排泄に関する情報

- ・7歳、男児/療育手帳A2/知的障害、てんかん
- ・コミュニケーション、ADL：カタコトのお喋りと多少の理解、自立歩行可
- ・排尿状況と悩み：完全にオムツで排泄している、定時誘導するもののトイレで排泄ができない（便座へ座らせても出ない）。排便は何となく本人から訴えがあるがほぼ排尿に関しては訴え無し。特に就寝時のお漏らしにより、オムツから横漏れ等が多く困っている状況

上記状況から、「DFree」を使うことで、適切なタイミングで排泄ができるのではないかと思います、利用を始めました。

排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿のたまり具合を0～10で数値化できる支援機器です。その数値は専用タブレットや自身のスマートフォンから確認でき、排尿のタイミングを予測し、排尿の機会を本人または介助を行う者に通知することができます。我が家では「DFree」で数値化された尿量をスマートフォンから確認し、通知をもとにトイレでの排尿を促し活用しています。数値が上がったタイミングでトイレ誘導すると、今までは空振りが多かったトイレ排尿が成功するようになりました。「DFree」をきっかけに本人もトイレ排尿の認識ができトイレトレーニングの一環になっています。今までのように無駄なタイミングでのトイレ誘導が減り、本人と介助者の負担軽減にも繋がっています。このように尿意を感じることができない障害者にとってDFreeは非常に有用です。

■陳情事項

・排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたく陳情いたします。「DFree」は令和4年4月に特定福祉用具に認定され、介護保険適用です。障害者（児）にも負担が少なく購入できるようになることを求めます。